



学校法人天理大学

平成29年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成29年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	40	170	133
	人間関係学科	80	320	339
	計	120	490	472
文学部	国文学国語学科	40	160	157
	歴史文化学科	50	200	169
	計	90	360	326
国際学部	外国語学科	165	695	612
	地域文化学科	195	735	718
	計	360	1,430	1,330
体育学部	体育学科	200	800	902
総 合 計		770	3,080	3,030

【天理大学大学院】

平成29年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	14
体育学研究科		12	24	17
宗教文化研究科		6	6	1
総 合 計		26	46	32

【天理高等学校】

平成29年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1,560	1,212
定時制課程（第二部）	普通科	※ 144	576	394
総 合 計		664	2,136	1,606

※全日制課程の募集人員は440名、定時制課程の募集人員は108名



【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成29年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
天理中学校		※ 200	600	537
天理小学校		※ 125	750	576
天理幼稚園		50	200	104

※天理中学校の募集人員は160名、天理小学校の募集人員は約110名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 5, 8 8 5名

(2) 役員・教職員の人数

平成29年5月1日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	17			36	18	71
天理大学		139	208	89	67	503
天理図書館				33	13	46
おやさと研究所		6		2	3	11
天理参考館				24	3	27
天理高等学校(第一部)		78		31	93	202
天理高等学校(第二部)		31	1	21	47	100
天理中学校		34	3	5	17	59
天理小学校		30	5	5	2	42
天理幼稚園		14		2		16
合 計	17	332	217	248	263	1,077

2. 事業の概要

学校法人天理大学は、教育基本法および学校教育法に従い、あわせて天理教の信仰に基づく宗教教育を行うことを目的として設立されました。本法人は、この目的を達成するために、「天理大学」「天理高等学校」「天理中学校」「天理小学校」「天理幼稚園」を設置し、天理教教義に基づき、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与することのできる人材の育成を目指す“信条教育”を柱とする学校運営に努めております。

この信条教育の徹底を図るため、教職員全員を対象とした「信条教育講習会」を毎年開催し、本年度は天理教秋津大教会長の上村善孝氏を講師として、施設別に2回開催いたしました。また、教職員の指針として策定された「めざす教職員像」のアンケートを全教職員に実施し、一人ひとりが常に信条教育を意識した取り組みがなされているかの自己点検を行い、信条教育発揚の一助としました。

教育現場で勤める教職員にとっては、研修が何より大切であることは申すまでもありません。各施設でも自主的な研修会を実施していますが、法人としても新任者研修会、現職研修、公開授業研究会、個人情報取扱に関する研修会、スポーツ指導者講習会等を開催し、教職員の資質向上を目指しました。

「学校評価」については、学校運営検討委員会でその結果を検討し、法人と各学校・園の連携を図るとともに、課題等を共有し学校運営の改善・向上に努めました。

学校施設は学生・生徒・児童などが一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、その安全は極めて重要であります。本年度、耐震診断を実施した施設において、その結果を踏まえ耐震化の方向性を検討した結果、天理高等学校の本校舎は耐震補強で進め、別館と第一体育館は耐震改築（建替）を行う。天理中学校の本校舎・講堂棟・体育館は耐震補強、柔道場は耐震改築を行う。また、天理小学校の体育館は耐震改築を行うこととなり、次年度の着工を目指し耐震改築および耐震補強設計を策定しました。

キャンパス整備については、従来から緊急性の高いものから計画的に取り組んでおります。本年度の施設・設備面の主なものとして、天理大学の杣之内キャンパスでは、4号棟1階学生ホールの空調更新工事および3階教室のマルチメディア化、研究棟の外壁・屋根塗装工事及びベランダ防水工事、心光館3階の空調更新工事、体育学部キャンパスでは、陸上競技場のトラックフィールド改修工事、総合体育館トレーニング場の床改修工事、テニスコート照明器のLED化、6号棟の3階トイレ改修工事、天理小学校はプールの塗装及び濾過ポンプの改修工事を行いました。

なお、天理中学校は耐震改修工事に伴い、3月におやさとやかた乾隅棟の5階に仮移転をしました。

以下、平成29年度の各施設の主な事業内容を報告します。

【天理大学】

天理大学では、長年本学教員としてだけではなく、副学長・学校法人理事としておつとめ頂いた大橋正叔教授が退任し、新たに岡田龍樹教授が副学長に就任しました。

創立記念日の4月23日、創立100周年に向けた行動指針として「天理大学ビジョン2025」が発表され、年度末には発表した指針をもとにした本年度の履行状況が教職員会議で公表されました。

また、前年度末に改訂・公表された、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）および「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）に基づき、東馬場郁生副学長のもと、カリキュラムの改訂に全学を挙げて取り組み、2019年度施行予定の新カリキュラムを制定しました。併せて、「履修系統図」（カリキュラム・マップ）も策定し、教育課程の再編を行いました。また、教育の内部質保証システム構築の一環として、新たに企画評価会議が設置され、教育や管理運営など、すべての活動についての点検と改善のための検討を行い、喫緊の課題から優先的に改善を行っています。

11月には、創設者中山正善天理教二代真柱様50年祭の記念として、2日間にわたり「中山正善天理大学創設者50年祭記念シンポジウム」を開催し、創設者が残した功績とその後の発展について意見を交わしました。



中山正善天理大学創設者 50年祭記念シンポジウム

＜教育・研究＞

本年度の教員免許状更新講習は、奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、8月22日に体育学部キャンパスで「保健体育科における教科指導」の選択領域1講座、8月23日に杣之内キャンパスで「学校教育の諸課題とカウンセリング」、「古文を面白くさせる『読み』」および「英語の多様性と国際性：英語成立の過程と世界の英語としての音声学」の選択領域3講座を開講しました。

宗教学科では、資格「宗教文化士」（「宗教文化教育推進センター」が認定する資格）の試験を、6月18日、本学を試験会場として実施しました。本学は、平成23年度に資格「宗教文化士」が充足して以後、その資格のパイロット校になっており、毎年、本学を試験会場の一つとして実施されています。今回は、宗教学科3年次生1名が合格して「宗教文化士」の資格を取得しました。

人間学部人間関係学科臨床心理専攻および臨床人間学研究科臨床心理学専攻では、「公認心理師法」が平成29年9月に施行されたことに伴い、公認心理師となるために必要な科目を次年度より開設するため、10月に文部科学省および厚生労働省へ確認申請をし、「開講科目確認書」、実習・演習科目に関しては「確認申請書」を送付し、国の認可を受けました。

平成30年3月に発表された第30回社会福祉士国家試験の合格状況は、4年次生の合格率が84.2%（19名中16名が合格）と、非常に高い合格率でした。これは近畿圏で3位（全31校）、私立大学（共学）では1位、全国238大学中14位、全私立大学中5位の成績となります。

また、教育職員免許法が改正されたことに伴い、平成31年に2専攻から2研究コースに変更する歴史文化学科について、平成31年度の課程認定を目指し、3月に文部科学省へ申請を行いました。

国際学部外国語学科英米語専攻では、2月13日から3月1日までの3週間、外部から英語ネイティブ教員2名を含む3名の講師を招いてTOEFL集中講座を開催し、15名の英米語専攻学生が参加しました。韓国・朝鮮語専攻では、「平成29年度奈良県友好交流を担う次世代養成事業（忠清南道）」（奈良県主催）の派遣団員に韓国・朝鮮語専攻学生1名（1年）が採用され、事前研修を受けた後、9月6日から10日までの5日間、韓国に派遣されました。また10月21日に奈良県庁で同成果報告会が開催されました。

国際学部地域文化学科日本研究コース(留学生対象)では、今や、世界的な展開をみせている漫画の制作を授業に取り入れました。世界 26 カ国から本学にやってくる留学生の共通項の一つが漫画・アニメであり、国際交流を促進する材料として、読み手としてだけでなく、制作の体験をすることで、調査力・企画力・創造力の涵養を目指しました。本年度は、春学期と秋学期合わせて 70 名余りが受講し、留学生が 1～3 人のチームを形成し、全 30 作品を制作しました。制作された漫画のテーマは、地元奈良や天理で進行している



漫画制作

市民活動である「川の清掃とホテルの再生」といった環境美化活動を、担当者の説明を聞き、また現場の川を訪問してホテルを観察する等、フィールドワークによる取材内容をモチーフにして、物語を創造して漫画の制作を行いました。制作されたマンガ作品は、12月20日に、「マンガ大賞」としてコンテストを行い、優秀作品は、「モーションコミック」の作品としてYouTubeにて再生しています。

体育学部体育学科では、平成 30 年 3 月 3 日、4 日に愛知大学で開催された日本体育測定評価学会第 17 回大会の総会において、寺田和史准教授発表の「鍼刺激が伸張－短縮サイクル動作の遂行能力に与える影響の評価」に日本体育学会測定評価専門領域の優秀発表賞が授与されました。また、同大会でも「上肢による Stretch-Shortening Cycle 動作遂行能力の評価指標としての上肢 Rebound Jump-index の試行間信頼性及び基準関連妥当性」をポスター発表し、こちらも同様に優秀発表賞を受賞しました。また、体育学部については、教員採用支援室で 3 名の本学卒業生（校長経験者）が学期を通じて定期的に学生の進路相談にあたりました。5 月 13 日には採用試験において面接試験担当を経験された本学卒業生のご支援を頂き「教員採用面接研修会」を実施しました。また 11 月 11 日には本年度の教員採用試験合格者を講師として、その体験談を聴く「教員志望者研修会」を実施しました。

学外研究助成等の活用としては、本年度の科学研究費助成事業の採択件数が、継続分を含めて研究代表者分が 27 件、研究分担者分が 25 件で合計 52 件となり、前年度に引き続き高い採択件数となりました。また、単年度の採択率としても 40%を超えており高水準を維持しています。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）の研究公募に、本年度も 1 件採択され、教員個人が取り組んだ学外研究助成を受けた研究も 1 件ありました。

FD 活動については、公開授業の抜本的な改善となった FD オープンクラスウィークを実施し、ほぼ全ての教員による授業公開と参観を実施することができました。これは、「相互研修」であり、授業改善の上に有益な研修で、次年度は専用システムの導入により、さらなる充実に向けた取り組みを進めます。また、FD 研修会については専任教員が参加必須となり（後日の DVD 視聴も含め）、専任の全教員が参加しました。

本年度の学術刊行物については、「天理大学学報」第 69 巻第 1 号～第 3 号（通巻第 246 輯～第 248 輯）、「山邊道」第 58 号、「史文」第 20 号、「外国語学科フォーラム講演会抄録Ⅱ」、「外国語教育－理論と実践－」第 44 号、「Clear Sky」第 16 号、「天理大学カウンセリングルーム紀要」第 14 号、「天理大学 2017 年度大学祭・外国語劇公演録」等を発行しました。

＜国際交流＞

平成 29 年 6 月 1 日付で国際交流センター室に留学生支援課を統合しました。国際交流センターは大学の国際交流協力事業や活動等を包括的に把握し、大学組織としての今後の方向性等を決定する国際交流センター協議会の定期開催を行っています。

海外の大学との新たな協定締結はなく、本年度末時点での海外交流協定校の数は全体で 23 カ国・地域 45 大学 2 機関となっています。

学生交流については、協定校から 53 人の短期（交換）留学生を受け入れ、本学からは交換留学生として 38 人、認定留学生として 27 人、計 65 人の学生を派遣しました。パリ・キャンパスでの半年間のフランス語研修については、本年度に制度を立ち上げ、1 人が参加しました。また、海外インターンシップ制度により、アメリカ・ニューヨークへ 5 人、シカゴへ 1 人、フランス・パリへ 2 人、ブラジル・クリチバへ 2 人、サンパウロへ 1 人、コロンビア・カリへ 1 人、タイ・バンコクへ 1 人、海外スポーツ型インターンシップとしてスイス・フリブールへ 3 人、計 16 人の学生を派遣しました。

30 回目の天理大学夏期日本語講座を 7 月 8 日から 20 日までの間、8 カ国・地域の 11 の協定校と 2 機関から 51 人の受講生を迎えて開催しました。受講生は、午前中 3 コマの日本語学習と、カウンセラーとして参加した本学学生（37 人）や体験したクラブの学生と短期間ながら有意義な交流を行いました。

さらに、平成 27 年 4 月に開設した iCAFe の利用者も増加の傾向にあり、日本人学生と留学生との交流促進や英語をはじめとする外国語会話力向上に貢献しています。本年度は 9 言語 40 人の言語チューターを配置して、外国語での会話指導を行いました。

ホームステイ・ホームビジット制度として、一般市民にホストファミリーになっていただき、留学生がその家庭に短期間宿泊または、日帰り訪問することで、

日本の家庭生活の一端に触れ、体験的に日本文化の理解を深めたり、留学生が自国の文化を紹介したりして相互の国際交流、異文化理解を深めています。本年度は約 30 件のホストファミリーの登録があり、29 人の留学生がこの制度を利用しました。

文学部歴史文化学科考古学・民俗学専攻では、9 月 8 日にイスラエル大使、ルツ・カハノフ氏の訪問を受けました。専攻から、イスラエルで行っている考古学調査の成果を紹介しました。



日本人学生と留学生との交流

＜就職支援＞

滋京奈地域のインターンシップ等を通じて滋京奈地域 14 大学、地元経済団体およびインターンシップを推進する組織と連携し、学生と企業とのマッチングや専門人材の養成に向けた取り組みを進めました。

10 月から 12 月にかけて学内で業界研究セミナーを開催しました。各業界より人事担当者を招き、業界全体の魅力や仕事のやりがい等について説明いただき、



業界研究セミナー

早期の段階での業界研究を行いました。

3月の就職活動のスタートに学生が出遅れないように、マイナビが主催する大規模な合同企業説明会にバスを仕立て、学生の参加を促しました。また、大学に企業の人事・採用担当者を招き、12月26日、2月5日に学内業界研究セミナー、3月12日、13日に学内企業説明会（官公庁を含む）を開催しました。参加企業は154社で約430名の学生が参加しました。

＜学生支援＞

学生支援については、平成29年10月に特別支援の基本方針が制定され、その前年に設けられている「特別支援室」を、より実態に即した運用ができるよう支援体制の整備を行いました。

6月13日に「薬物乱用防止および交通マナー講習会」を実施しました。薬物乱用防止のDVD上映のほか、交通マナーについて、天理警察署交通課の指導員による講習等を、各クラブの役員および、新入生が受講しました。

また、7月6日、7日の2回に分けて「事故防止講習会」を開催しました。看護師による熱中症予防対策についての説明の後、ミニアンキッドを用いての心肺蘇生法実技やAED（自動体外式除細動器）使用についての講習を行い、各クラブ役員等多数の学生が受講しました。

大学祭期間中の11月3日に日本年金機構（桜井年金事務所）がブースを設け、年金の説明や猶予の事務手続き、また、質問に対しての回答等を受けました。

＜入試＞

本年度に実施した平成30（2018）年度入学者選抜より、一部の選抜方法を除き、「Web出願」を実施しました。また、体育学部体育学科の入学者選抜方法を改変し、公募推薦（学校推薦型）の＜特技型＞を新たに＜スポーツ特技A型＞、＜スポーツ特技B型＞に区分し、優秀な受験生確保のための体制を整えました。さらにこれまで実施してこなかった一般選抜後期並びに大学入試センター利用選抜＜後期＞を開始しました。

入試広報活動について、各地区の入試相談会や高校内ガイダンスのほか、例年通り、7月、8月、9月のオープンキャンパス（3回）のほか、11月の大学祭に合わせた入試相談会、3月には春のオープンキャンパスを実施しました。5月3日には、前年度人間学部のみで実施した「オープンスクール」を主に管内高校と指定校を対象として、全学で実施しました。

また、初めての試みとして、奈良県大学連合の主催で、東京室町にある奈良県まほろば館において、「奈良県大学合同相談会」を実施しました。

天理教教会本部月次祭が執り行われる毎月26日に、天理本通りにある「てんだーcolors」において、継続的に入試相談会を実施しました。



天理大学オープンスクール

＜広報＞

大学広報誌「はばたき」は、第39号から第42号を発行し、在学生および保証人（保護者）並び

に卒業生に配布するとともに、入試広報として活用しました。

本年度初めての試みとして、「記者懇談会」を6月に実施し、県内の各新聞社、テレビ局の関係者を招待し、「天理大学ビジョン2025」はじめ、本学の活動について説明し意見交換を行いました。

Webサイト関連について、大学公式ホームページやFacebookにより、本学学生や教職員の教育研究活動や課外活動をタイムリーに発信しました。また、10月以降、リスティング広告を実験的に実施し、有効性について検証しました。

＜高大連携＞

4月23日の創立記念日に奈良育英高等学校と「高大連携協定」の締結式を行いました。本学としては初めての高大連携協定となります。

人間学部宗教学科では、10月30日、31日に天理高等学校・用木コースの生徒を対象として、本学の創設者記念館の案内や講義をとおして、本学の紹介を行いました。

文学部歴史文化学科考古学・民俗学専攻では、5月29日、奈良県立西の京高等学校地域創生コース3年生38名が来学し、大学での歴史系分野の学びについての講義を受講した後、天理参考館でワークショップ「博物館見学のプロフェッショナルになろう！」を体験しました。9月25日には、奈良県立法隆寺国際高等学校歴史文化学科2年生39名が来学し、民俗学の実習を体験した後、天理参考館を見学しました。

国際学部外国語学科英米語専攻では、天理高等学校との高大連携で11月25日に開催された天理高等学校英語コースの英語交流会（英語ディスカッション・ミーティング）に天理大学から英語圏からの留学生8名と海外留学帰りの英米語専攻学生4名を派遣し、交流しました。

体育学部では、本年度約30の高等学校において模擬授業、進路ガイダンスに体育学部教員が赴きました。



高大連携協定の締結式

＜課外活動＞

ラグビー部は関西大学Aリーグで2年連続全勝優勝を果たし、全国大会へ出場しました。

硬式野球部は、阪神大学リーグで春秋リーグ制覇を果たし、春には「全日本大学野球選手権大会」に出場し、ベスト8の活躍をしました。

合気道部は、「2017 合気道世界選手権大会」で演武競技乱取基本の形17本ペアにおいて、カセムモンコン・カッタリヤー（日本語専攻2年）と馬淵今日子（体育2年）が優勝、池田真悟（生涯3年）も社会人とペアを組み、優勝しました。また、池田真悟は、「全日本学生合気道競技大会」で男子乱取個人戦においても優勝しました。

ホッケー部男子は、シニア日本代表として、田中海渡（体育4年）、福田健太郎（体育4年）、霧下義貴（体育1年）が南アフリカ、マレーシア、バングラディッシュ等、世界で活躍しました。

ホッケー部女子は、関西学生春季リーグで4季連続63回目の優勝を果たし、全日本大学ホッケー王座決定戦でも優勝しました。女子の中にも、日本代表「さくらジャパン」として、松本夏波（体

育 4) が活躍しました。他にも、3 名が U21 日本代表として選出されました。

柔道部は、「関西学生柔道体重別選手権大会」において、全 7 階級で本学学生が優勝しました。山本悠司 (体育 4 年) は 2017 グランドスラム東京大会に日本代表選手として出場、その他、「全日本柔道体重別選手権大会」・81kg 級で優勝するなどの活躍をしました。

他にも女子バレー部、弓道部女子、バドミントン部が 1 部に昇格しました。

また、同好会では軟式野球同好会が 2 部から 1 部へと昇格しました。

文化系では、ボランティアサークルマンモスが長年の活動を評価され、天理市表彰 (善行者表彰) を受けるなど、課外活動全体が大きく躍進した 1 年でした。

「こどもおちばがえり」ひのきしんには、例年通り、軽音楽部、演劇部、成人会、よふぼく会を含め、多くの学生・職員がひのきしんに汗を流しました。また、「お節会」ひのきしんにも多くの学生が参加するなど、本学の学生らしい姿を学内外問わず、多くの方々に見ていただきました。

「第 45 回五外大英語弁論大会」が 12 月 10 日に本学で開催され、大阪大学 (旧大阪外国語大学)、神戸市外国語大学、関西外国語大学、京都外国語大学、本学の 5 校からそれぞれ 1 年次生 3 名が出場しました。天理大学英米語専攻の ESS 部員 3 名が本大学代表としてスピーチし、見事団体優秀と個人賞 (2 位、3 位) を獲得しました。

＜社会連携＞

産学連携について、9 月に株式会社モンベルと、10 月に株式会社ドーム (アンダーアーマー国内代理店) とそれぞれ「包括連携協定」を締結しました。株式会社モンベルとは、7 つの連携事項からなる包括連携協定を定め、アウトドア活動等の促進を通じた地域の活性化と天理大学における教育の質の向上および調査研究活動の充実を目指すこととなりました。また、株式会社ドームとは、スポーツを通じて地域社会、学生生活をより豊かにすることを共通の大義とし、それぞれの資源、研究成果等を活用し、スポーツの産業化、国民の健康増進および未来を支える人材の育成に資することを目的に締結しました。



株式会社モンベルとの包括連携協定式

ホッケー部男女、ハンドボール部男女、アメリカンフットボール部の 5 チームのユニフォームを一新しました。

天理市との包括連携協定に基づき、平成 29 年 4 月にオープンした天理駅前 CoFuFun 内、南団体待合所を会場に、「Tenri English Village (天理英語村)」を立ち上げ、英語を使ったコミュニケーションの場の提供を開始しました。5 月から 7 月までのプレオープン期間に延べ 8 回開催し 287 人が、9 月の正式オープン後は、小学校低学年向けと高学年向けの 2 つのこどもクラスに、中学生以上を対象とした初級と中級を加えた計 4 つのクラスを隔週開催し、307 人の参加がありました。人間学部人間関係学科生涯教育専攻を中心に、賃貸のマサキと天理大学による「学生が住み



Tenri English Village (天理英語村)

たいワンルームプロデュース」プロジェクトに、専攻学生が参加しました。学生が提案した「心を整える部屋」をコンセプトにしたワンルーム（天理市守目堂町）のリフォームが、平成 29 年秋に完成しました。7 月 2 日には、小中学生を対象とした「飛鳥歴史たんけん隊」を実施しました。これは、授業科目「市民活動論」の一環として飛鳥ニューツーリズム協議会との連携により、企画・実施したものです。また、6 月 28 日と 11 月 15 日の 2 回、奈良市帯解放課後子ども教室の活動を実施しました。これは、1 年次生必修授業科目の一環として「生涯教育基礎演習」で企画・運営したものです。11 月 27 日、専攻では、1 号棟を会場に、「てくてく天大～歩いてまわる博覧会～」を開催しました。これは「天理の秋を盛り上げよう」をテーマとする天理市のイベントの一環として、2 年次生必修授業科目「生涯教育基礎実習」で企画・運営を行ったものです。平成 30 年 1 月 20 日、CoFuFun 南団体待合所にて、市内小学生を対象とした啓発劇・イベント「天理一うけたい授業」を開催しました。これは、授業科目「消費者教育論」の一環として、天理市教育委員会の後援、奈良県消費生活センター、天理警察署の協力を得て実施したものです。さらに、天理市教育委員会による事業「てんりスマホサミット 2017」の学生サポーターとして専攻学生が参加し、半年間にわたる準備、ワークショップから平成 30 年 1 月 20 日開催のサミット本番にまで携わりました。

文学部では、5 月 1 日に天理市教育委員会と「天理市内埋蔵文化財の調査・研究に関する覚書」締結し、2 月には天理市教育委員会と共同で東乗鞍古墳の物理探査・発掘調査を行いました。また本年度、文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業「天理山の辺の道の歴史遺産を学ぶ」（事務局：天理大学附属天理参考館）の構成団体となり、事業の一端を担っています。

国際学部外国語学科英米語専攻では、天理市立柳本小学校へ ALT をつとめる学生 2 名を 7 月から 2 月まで派遣し、同小学校の英語（3～6 年）の授業を教えています。本年度からは前栽小学校からも要請があり、1 名の学生を ALT として 1 月から 2 月まで派遣しました。天理小学校においては、毎年 6 月にアメリカケンタッキー州から日本研修団 KIIS（Kentucky Institute for International Studies、アメリカ人教授・学生約 30 名）一行が来訪し、天理小学校の全クラス（18 クラス）で英語を教える際の通訳として、英米語専攻の学生 18 名（各クラスに 1 名）を天理小学校へ派遣しました。奈良市立二名中学校の 1 学年約 170 名の生徒が、毎年 11 月に奈良公園で外国人観光客を対象に実施する外国人案内・インタビューの学校行事の際のボランティア通訳として英米語専攻の学生を 6 名派遣しています。また、NPO 奈良外国語観光ガイドの会と協力して、英語での案内とインタビュー活動のため、練習（半日）および本番の 2 回にわたって支援しており、本年度は 10 月 27 日に英語指導のため、また 11 月 10 日には奈良公園での本番通訳のため 6 名の英米語専攻学生を派遣しました。

同韓国・朝鮮語専攻では、9 月 24 日に明日香村で開催された「歴史の道～飛鳥で出会う・食と文化の国際交流～」(奈良県日韓親善協会主催)の「韓国語による弁論大会 in 飛鳥」に、韓国・朝鮮語専攻の学生が参加し、達城友香（3 年）が優勝しました。また、11 月 5 日に史跡なにわの宮跡（大阪市）で開催された「四天王寺ワッソ」（NPO 法人大阪ワッソ文化交流会主催）に同好会コリア文化会と韓国・朝鮮語専攻の学生、邦楽部の留学生（計 33 名）が楽隊として参加し、1 カ月余りにわたる練習の成果を披露しました。

公開講座等については、文学部国文学国語学科が「ことばと文学」を、歴史文化学科が『大和学』への招待、言語教育研究センター主催の「世界の言語」等を開催しました。

＜施設・設備関係＞

杣之内キャンパスについては、3号棟1階事務室、研究棟南側2カ所の階段、8号棟情報ライブラリー全館の照明をLED照明に改修工事を実施しました。3号棟地下2階フロアの湿度対策のため空気循環を良くする環境改善対策を実施しました。3号棟地下1階事務室の窓を2重窓に改修しました。学修環境改善の上から、研究棟4階西側演習室3室の学生用机・椅子を入れ替えました。4号棟2、3階廊下・階段壁面の塗装および3号棟2、3階教室床面の樹脂塗装を実施しました。研究棟外壁・屋根の損傷・塗膜状況の悪化に伴い、北面部分の塗装を実施しました。個人研究室等の教会本部内線電話撤去、大学内線電話導入および研究棟電話交換機の老朽化のため、電話交換機の入替え工事を行いました。

体育学部キャンパスについては、学修環境改善の上から7号棟73A教室の学生用机・椅子を入れ替えました。陸上競技場のトラックおよびフィールドの改修を本年度、次年度の2カ年で実施しています。併せて、テニスコート西側照明をLED照明に改修しました。総合体育館トレーニング室のトレーニング機器等の入れ替えおよび床改修を本年度からの3カ年計画で進めますが、本年度は床改修を実施しました。6号棟3階の男女トイレを改修し、多目的トイレを設置しました。また、親里ホッケー場クラブハウス改修に向け一部不要構造物を撤去しました。

情報システム関係については、学内情報共有のためのデジタルサイネージシステム（電子広告・掲示板）の2期工事を実施し、前年度の3カ所に加えて新たに6カ所（3号棟1階ホール、研究棟1F玄関ホール、体育学部総合体育館ロビー、体育学部学生ホール、てんだりーcolors、難波オフィス）へ設置し、運用システムの改良（エリア別コンテンツ）も行い、サービスの充実を図りました。教育系パソコンの維持・拡張では、4号棟3階A～J教室をマルチメディア教室へ改装し、通常教室全体の環境統一を行いました。また、AV3教室を既設CALL1～2教室のパソコンを一部移設してCALL教室として改装し、CALL教室を5教室へ再編成してCALL教室不足への対応を行いました。ネットワークの維持・拡張では、杣之内キャンパス心光館食堂および体育学部6、7号棟研究室エリアへ無線LANを新設しました。教職員共通システムであるサイボウズ（グループウェア）では、システムをVer.4へアップし、同時に経年劣化したサーバー機器を更新、ユーザー容量の確保およびシステムの安定化を行いました。ICTヘルプデスク（契約常駐員）においては、前年度開設より引き続いて教員からのヘルプ対応を行いました。Windows10対策では、次年度より2年の計画を策定しました。これは、授業で混乱のないように教育系パソコンの一斉切り替えを視野に、経年劣化したパソコンを現状のWindowsバージョンのまま入れ替えしながら、2020年度にWindows10へ一斉切り替えます。さらには年2回あるWindows10メジャーアップデートへの対策でもあります。これらの準備作業として、本年度は対策用サーバー機器の先行導入を行いました。

さらに法人内における大学外への対応では、校園全体ネットワークの維持管理およびセキュリティソフトの更新、法人事務局業務のパソコンやサーバーおよびシステム更新、天理高等学校教員パソコン増設やネットワークの拡張、天理中学校一時移転対策として代替ネットワークの準備やサーバー機器の移設保管、参考館行事に伴う仮Wi-Fiの設置など、これら作業および支援を行いました。

教育および事務パソコンや業務システムなどのICT技術は進歩と普及を加速させる中、データベース保全、ネットワーク安定化、セキュリティ保証、危機管理など、これら安心のための担保（設備面、技術面）が重要な課題となっています。これに向けて今年度は旧中継台室を第2サーバー室として運用し、担保充実へ向けての整備作業を開始しました。

＜スタッフ・ディベロップメント関係＞

平成 29 年 4 月よりスタッフ・ディベロップメントが義務化されたことに伴い、「天理大学 SD の実施方針」および「SD の実施計画」を定め、研修を実施しました。本年度は「SD の実施計画」に基づいて、1) 創立記念日式典における学長講演（平成 29 年 4 月 23 日）、2) 他大学から講師を招いての SD 講演会（平成 29 年 10 月 13 日）、3) 学生相談委員会、人権教育推進会議共催による学内研修会（平成 30 年 2 月 21 日）を実施しました。

＜その他＞

杣之内キャンパスと体育学部キャンパス間を移動する教職員・学生の利便性向上と移動途中の安全確保のため、4 月からシャトルバスの運行をはじめました。普通授業期間中、1 日 7 便が運行しました。

天理大学ふるさと会（本学同窓会）との連携により、「第 8 回天理大学ホームカミングデー」を大学祭期間中の 11 月 4 日に開催し、約 250 名の卒業生、教職員が集い、盛会裏に終えることができました。

人権教育関係については、ヒューマンライツ助成制度によって、人間学部主催の人権啓発行事「車いすスポーツを楽しむ」を平成 30 年 1 月 18 日に実施するなど、各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用を心掛けました。

整理については、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しております。また、5 カ年計画で取り組んでいる一般図書のカード目録遡及は、85% の入力を終えましたが、残りの部分、主に和漢古書、明治期刊行書や洋書の遡及に引き続き取り組みました。本年度は、1,635 点 5,871 冊の入力を行いました。和漢古書の遡及入力、古典籍資料を多く所蔵する天理図書館の使命であり、学会各方面の利用に供し、新たに重要資料であることが確認されるなど、学術研究の進展に寄与することができました。

閲覧については、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替えるなど、見直し作業を行っています。マイクロリーダープリンターの後継機としてマイクロフィルムスキャナーを設置し、利用者環境を改善しました。貴重書（近世文書を含む）の閲覧は、延べ 205 名 1,728 冊ありました。

図書館の利用案内については、4 月 17 日から 5 月 30 日の期間中、天理大学 1 年生、天理教校本科実践課程、同研究課程、専修科 1 年生を対象に、また、12 月 11 日から同 15 日と 1 月 15 日から同 19 日の期間中、卒論利用のための天理大学 3 年生を対象にオリエンテーションを行いました。天理医療大学学生に対しては、利用案内の葉を配布しました。

見学については、国内外の研究者、学校関係者などの来客が、25 件 354 名あり、閲覧室、一般書庫、常設展示を案内しました。

資料の掲載については、230 件の申請があり、教科書、学習参考書から学術書、大学紀要類、テレビ放送に至るまで天理図書館所蔵資料を利用いただきました。

資料保存では、国宝『類聚名義抄』をはじめ、貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。

天理図書館所蔵資料を広く一般に公開する上から、展覧会や講演会を開催してきております。本年度は、館内展として開館 87 周年記念展「漱石―一生誕百五十年を記念して―」を 10 月 19 日から 11 月 12 日まで開催し、1,839 名の来場者がありました。会期中の 11 月 4 日には、本学の北川扶生子教授による記念講演「新聞小説家・夏目漱石の誤算」を開催し、179 名の来場者がありました。

館外展については、天理ギャラリー第 161 回展「漱石―一生誕百五十年を記念して―」を 5 月 14 日から 6 月 11 日まで開催し、949 名の来場者がありました。会期中の 6 月 3 日には、ロバート・キャンベル氏（国文学研究資料館館長）による記念講演「漱石先生の快楽と苦痛」を開催し、283 名の来場者がありました。

天理参考館との共催展覧会として、天理参考館特別展「天理図書館 古典の至宝」を 3 期（9 月 16 日から 10 月 9 日まで、10 月 11 日から 11 月 6 日まで、11 月 8 日から 11 月 27 日まで）に分けて開催し、12,247 名の来場者がありました。会期中の 9 月 23 日に、木田章義氏（京都大学名誉教授）による 記念講演「饅頭屋と博士家―文化を守るもの―」を開催し、82 名の来場者がありました。



漱石―一生誕百五十年を記念して―

出版活動では、天理図書館報『ビブリア』第 147 号（5 月刊）、同第 148 号（10 月刊）のほか、開館 87 周年記念展、天理ギャラリー第 161 回展、天理参考館特別「天理図書館 古典の至宝」の各展覧会図録を出版しました。平成 27 年度から刊行が始まりました『新天理図書館善本叢書』（全 5 期 36 巻）は、第 13 回から第 24 回までを配本しました。

対外的な活動については、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の加盟館として県内の大学・専門図書館と連携、協力を図っています。また、同協会地域資料研究会から委員の委嘱を受けて、地域資料について調査・研究、情報の共有化を図っています。

また、本年度、次年度の 2 年間は、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会担当理事を務める当番校になり、私立大学図書館協会、同西地区部会、同西地区部会京都地区協議会の各総会、研究会、運営委員会に出席するなど、加盟各館と連携、協力しています。

施設・設備面については、正面玄関扉塗装工事、外灯塗装工事のほかに、前年度に引き続き駐車場ライン工事（公用車の駐車スペース）を行いました。漏水対策として、光庭トップライト・ガラスブロック改修工事を行いました。また、西館正面カウンター書庫扉と収書室前書庫扉の沈下改修工事、西館廊下照明器具取替工事、一般利用者用地階男子トイレ前土間改修工事を行いました。館内外の日々の清掃はもとより、曝書期間を利用して、正面ホール、廊下、階段、休憩室などの清掃・ワックスがけを行い、環境美化に取り組みました。

【おやさと研究所】

本年度は、『天理教事典 第 3 版』を 3 月 26 日付で出版する事ができました。二代真柱様 50 年祭に向け研究所の総力を挙げた取り組みでした。これは 20 年ぶりの改訂となり、多くの新規項目を取り上げる事になりました。本法人の深谷理事長、天理大学の永尾学長をはじめ 6 名の監修者を以て編集に取り組み、天理教道友社、天理時報社の協力を得て、この一大事業をなす事ができました。天理教と社会の意思疎通の大切な媒体となるべくその活用を呼びかけたいと考えます。また、天理教学の成果を教内外に問う公開教学講座「信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ (3)」を行いました。

これは『稿本天理教教祖伝逸話篇』における教祖の逸話を手掛かりとして、お道の信仰の世界の一端を明らかにし、更に深めるためのものであります。

道友社 6 階ホールを会場に 4 月から 11 月まで計 6 回の開催を行い、本年度は 39 話、42 話、43 話、44 話、45 話、48 話を取り上げました。今回も多くのお聴者を得る事ができました。その要旨は「グローバル天理」等で発信しています。

一方、現代社会の問題に対して対応できる人材の育成を目指したセミナー「教学と現代」は、ポスト教祖 130 年祭を見据えた企画として、「家族」に関わる事柄について多角的な視点からなる講座で、3 年間のシリーズで開催してきました。その最終回となる第 3 回は平成 30 年 3 月に「生命倫理と家族の未来」をテーマに行いました。医療技術の驚異的な進歩は、病気の治療に大きな貢献をもたらしましたが、一方で人間生命を操作改変する事態にもおよんでいます。こうした問題をどのように考えるかという大きなテーマに取り組みました。基調講演では生命操作の視点から臓器移植・生殖医療・ゲノム編集を考え、「生命操作はどこまで認められるか」を教理の視点を踏まえて活発な討論を持つ事ができました。

「研究報告会」は第 301 回から第 309 回まで行いましたが、これは研究所の研究員だけでなく、教内の研究者も担当をしました。取り上げられたテーマは天理教学の現状と将来を取り上げたもの、天理教の海外伝道の歴史と現状、またエコロジー問題等であり、こちらも実りある研究報告会となりました。

出版活動については、月刊「グローバル天理」、「おやさと研究所年報」第 24 号、「Tenri Journal of Religion」第 46 号、「伝道参考シリーズ」としては第 33 号『「元の理」と生命科学』（塩澤千秋著）、第 34 号「現代社会と天理教 2」を刊行しました。

【天理参考館】

博学連携の充実を図るため、管内各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用促進の働きかけを行いました。その結果、天理市教育委員会主催の初任者研修を 7 月に当館にて開催しました。また、単に展示資料の見学案内だけでなく、学校教育充実の一助となるような取り組みも行いました。

常設展示（「震災復興展示— 民俗と歴史 —」（平成 27 年 7 月～）を含む）のほか、企画展「墳墓の護り手— 鎮め護り彩る品々 —」（4 月～6 月）、「風とあそぶ— 中国山東省の風 —」（7 月～9 月）、天理図書館と共催で特別展「天理図書館 古典の至宝— 新善本叢書刊行記念及びスポット展「五月人形」（4 月～5 月）、「雛人形」（2 月～4 月）等を開催しました。



公開教学講座



見学をする小学生

また、天理ギャラリー展としては、「華麗なるササン王朝―正倉院宝物の源流―」（9月～11月）、「諸国名所絵図めぐり―一枚刷りにみる、ふるさとの風景―」（2月～4月）を開催しました。特に、特別展「天理図書館 古典の至宝―新善本叢書刊行記念―」では、マスコミ各社、各交通会社の後援、協力を得て三期に分けて開催し、12,247人の来館者数となりました。

企画展関連イベントとして開催した講演会（3回）、ワークショップ（6回）、ギャラリートーク（展示解説／8回）は好評でした。

このほかトーク・サンコーカン（公開講演会／9回）、ワークショップ「バリガムラン体験講座」、「クラシックギター講座」、「折紙を楽しもう」、「こどもおちばがえりイベント」、「紙粘土で霊獣を作って色を塗ろう!」、「凧を作ろう」、「古代の首飾りを作ろう」を開催しました。

また、ミュージアムコンサート「参考館メロディユー」（天理教育音楽研究会共催／12回）を継続して開催しました。

平成21年度から始めた受贈資料の整理、登録業務を進めました。通常業務としては生活文化・考古美術資料の収蔵品及び研究用図書の実態を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。

出版物として『天理参考館報』、『企画展図録』、『天理参考館ニュースレター』を刊行しました。

さらに、前年度に引き続き、平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金による「天理山の辺の道の歴史遺産を学ぶ」事業が採択され、連続講座「天理の歴史絵巻 古代史セミナー」（6回）、歴史ウォーク「大和の中のヤマト―バスで訪ねる文化遺産―」（3回）などの各種イベントは好評でした。

また、1階エントランスホールでは「山の辺スペース」を設け、「山の辺の道マップ」、「大和の古道」、「天理市の山の辺の道スポットガイド」のパネルを掲示しました。さらに、「山の辺の道クイズ」（市内5カ所でも同時）を開催しました。加えて、この事業では、英語・中国語・韓国語のリーフレットを作成し、当館ならびに市内各所へ配置しました。

広報については、ホームページによる情報発信のさらなる内容充実につとめ、情報誌、マスコミへの情報提供、各種ポスター、ちらし等を発行するなど、館活動の情報発信を継続するほか、広報活動の充実を図りました。

そのほか資料熟覧、資料写真掲載・映像取材などの協力を行い、また、来館者に喜んで頂けるような親切的接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組みました。



講演会



参考館メロディユー

【天理高等学校第一部（全日制）】

本年度の「こどもおちばがえり」ひのきしんには、7月16日から24日までの準備期間に176名の生徒が、7月25日から8月6日までの本期間に595名の生徒が参加しました。また、夏の「学

生生徒修養会」には自宅通学生 18 名が参加しました。

「天理教少年会育成講習会・天理高校生の部」には、68 名の生徒が参加し、子どもたちと接することの喜び、縦の伝道の大切さを学びました。そして 3 年生 395 名全員が 1 月に「おさづ けの理」を拝戴しました。

教職員研修については、信条教育部が主体となって、6 月 28 日に天理教甲賀大教会役員 岡田悟先生をお迎えして、「お道の基礎教理」について講話をいただき、11 月 29 日には、天理教美唄分教会廣岡文衛先生をお招きして、心身の悩みを抱える生徒が多くなっている

教育現場でどのように適切な指導をすべきかについて、信条教育の立場でご教示をいただきました。

さらに、教員個々が共通の認識を持って、生徒指導や進路指導に取り組めるよう、また、発達障害や性的マイノリティーに対する理解と共生、熱中症の予防と迅速な対処に関する研修を、生徒指導部・人権教育部・学芸体育部などが企画し 7 回にわたって行いました。また、教科指導の充実を図るため、6 月と 11 月に授業研究会を実施し、各教科代表の先生方が研究授業を行いました。その他、管外の研修へも多くの教職員が参加しました。

進学・学習指導については、特に 1 類での課外講習の充実を図るため、前年度から申し込み時に保護者の署名をもらうことや、学期末ごとに受講生徒の出席状況や授業態度等を A・B・C の 3 段階で保護者に報告することを行っていますが、本年度はさらに、出席状況や授業態度の悪い者に対してはコメントを加えるようにしました。その結果、生徒の出席状況や授業態度が改善され、保護者の講習に対する意識も高くなったように思います。また、前年度に続いて、大学入試準備講習（1 年）と国公立対策講習（2 年）で、卒業生による講演会を行い、好評を博すことができました。2 類では、模試に関して、志望大学毎のオープン模試や実戦模試へのチャレンジも促し、模試データの活用にも工夫を加えました。また、進路講演会としては、業者の進学講演に加え、卒業生による講演を実施しました。卒業生の講演は、年齢が近く、体験談を直に聴くことができるため、1 類と同様、生徒の関心を大いに集めました。センター試験には全類合わせて 106 名が出願しました。

本年度も通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習やセンター試験対策を行いました。2 類の生徒が中心ではありますが、合宿勉強会を滋賀県高島市の「アクティブプラザ琵琶」にて行いました。総勢 102 名が参加し、快適な学習環境の中で集中して学習に取り組みました。

12 月には 14 回目となる海外研修をタイ王国のチェンマイとバンコクにて実施し、1 年生を対象にして希望者 18 名が参加しました。生徒たちはさまざまな異文化体験を通して視野を広げることができました。

全教職員に対して記名式の学校評価を実施し、これに生徒による評価を加え、学校としての在り方や生徒の実態を分析するとともに、学校評価の目的に相応しい取り組みができるよう、各分掌で成果と課題を整理し、次年度に向けた方策が示されました。また、10 月の保護者懇談会の際には、保護者に対して学校評価アンケートを実施しました。

進学実績については、2 類からは大阪大学、横浜国立大学、岡山大学、佐賀大学、宮崎大学、金沢大学、和歌山大学、三重大学、大阪市立大学、大阪教育大学、奈良県立医科大学、奈良教育大学、京都市立芸術大学、広島市立大学、はこだて未来大学の 15 校の国公立大学に 19 人が合格しました。



こどもおぢばがえりひのきしん

2 類現役生 73 名の 4 人に 1 人が国公立大へ進学しました。さらに、同志社大学 1 名、関西大学 2 名、立命館大学 3 名、近畿大学 6 名、京都産業大学 1 名、龍谷大学 3 名など、多くの私立大学に延べ 46 名が合格しました。

1 類からは広島大学、広島市立大学、公立鳥取環境大学、徳島大学、愛媛大学、奈良県立大学の国公立大学に 6 名が合格、進学しました。3 類からは、筑波大学、東洋大学、東京農業大学、明治大学、同志社大学、関西大学、関西学院大学、立命館大学、近畿大学、大阪工業大学をはじめ私立大学を中心に進学しました。

全類で国公立大学（26 名）をはじめ、天理大学（99 名）、天理医療大学（22 名）やその他の私立大学（188 名）、短期大学（15 名）、天理教専修科（7 名）専門学校（45 名）等を加えると、延べ 433 名が合格しました。

クラブ活動については、全国高等学校総合体育大会において、66 年連続出場の柔道部男子は、団体戦と個人戦 7 階級に出場し、団体戦は 2 回戦で敗退するも、個人戦では 100 kg 級の神野光稀（3 年）が 5 位入賞、100 超 kg 級の中野寛太（2 年）が優勝しました。柔道部女子も団体戦と個人戦 3 階級に出場し、団体戦は 3 回戦まで駒を進めました。46 年連続 46 度目の出場を果たしたホッケー部男子は、2 年連続 7 度目の優勝を飾り、春の選抜と合わせて 2 年連続の 2 冠を達成しました。7 年連続 27 回目の出場を果たしたホッケー部女子は、2 回戦まで進み、ベスト 16 の結果となりました。バスケットボール部男子は 53 年ぶり 2 回目の出場を果たしましたが、残念ながら 1 回戦敗退となりました。卓球部男子の松井大河（3 年）が 3 年ぶりの出場を果たしましたが、力及ばず 1 回戦敗退となりました。水泳部は競泳の部に男子 7 名と女子 6 名が出場し、女子の五島実咲（2 年）が 200m バタフライで第 6 位に入賞し、男子の安井健斗（3 年）が 100m 背泳ぎで見事に優勝しました。

硬式野球部は第 99 回全国高校野球選手権大会に 2 年ぶり 28 回目の出場を果たし、27 年ぶりのベスト 4 となりました。軟式野球部は 8 月におこなわれた第 62 回全国高等学校軟式野球選手権大会に、2 年連続 15 回目の出場を果たしましたが、1 回戦敗退となり、2 年連続の優勝は叶いませんでした。

愛媛県で行われた国民体育大会において、水泳部の安井健斗が男子少年 A 200m 背泳ぎで第 3 位、五島実咲が女子少年 A 200m バタフライで第 5 位に入賞しました。また、女子少年 B では河田萌花（1 年）が 400m フリーリレー第 2 泳者として出場し、5 位に入賞しました。また、ホッケー部男子が準々決勝で敗退、硬式野球部は 2 回戦敗退となりました。

12 月にフランスで開催されたクリスマス杯エクサンプロヴァンスジュニア国際柔道大会に出場した中野寛太（2 年）が、オール 1 本勝ちという快挙で見事優勝しました。同じく 12 月に天理市の親里ホッケー場他で行われた全国選抜大会に出場したホッケー部は、男子がベスト 8、女子がベスト 16 となりました。バスケットボール部男子が東京体育館で行われた全国バスケットボール選手権大会に初出場しました。結果は 1 回戦敗退となりました。

3 月にはバレーボール部男子が東京で行われた全国私学大会に出場しました。結果は予選リーグ 2 勝 2 敗となり、決勝トーナメントには進出できませんでした。また、柔道部男子は東京で行われた全国高等学校柔道選手権大会に出場し、73 kg 級で中村洸登（2 年）が優勝、無差別級でも中野寛太（2 年）が優勝しました。久々の優勝が期待された団体戦は、決勝で国士舘高校に惜敗し、準優勝となりました。ラグビー部は 3 月に行われた全国高等学校選抜大会近畿予選にて 3 位となり、近畿代表として埼玉県で行われた全国高等学校選抜大会に出場しました。

文化系クラブでは、吹奏楽部が11月に行われた第19回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜に17年連続出場し、金賞に相当する連盟会長賞を受賞しました。美術部では、2月に東京美術館で開催された第62回全日本学生美術展で、油絵部門応募総数1000名の中から、矢谷若菜(2年)が全日本学生美術会理事長により最高位の「最優秀特別講評作品」に選拔されました。また、水彩部門応募総数約500名の中から橋本奉(1年)が最終選考の8名に残り「推奨」を受賞しました。

バトン部は12月に千葉県で開催された第45回バトントワーリング全国大会に4年連続14回目の出場を果たし、3年連続金賞を受賞しました。ダンス部は6月に千葉県で開催された第5回全日本ダンス大会に出場しました。

【天理高等学校第二部（定時制）】

学校設立の基本理念に基づき、天理教の教えをもって人類・社会に貢献できる人材の育成を目指す、という教育目標に向けて本年も努めてまいりました。

4月16日の「はえでのつとめ」に本校農事部と天理教本部「大裏」の生徒職員が参拝させていただき、作物の豊作を願いました。4月19日の婦人会総会では山下みのり(1年)が新入婦人会員を代表して力強く宣誓を行いました。

4月から5月にかけて、近年多様化する生徒への理解の一助とすべく学級担任による個人面談を全学年で実施し、10月には奈良県教育委員会教育振興課が主催する「こころといのちに関するアンケート」調査に参加し、奈良女子大学、東京家政大学等の専門家による分析結果を得て、各担任が生徒理解の上での参考としました。

5月には長年にわたり県の委託を受けているスポーツテストを実施しました。25、26日の両日は、保護者懇談会を行い、10月の懇談会と合わせて生徒の情報と学校へのご理解・ご協力をお願いする場としました。(保護者の出席率5月85.5%、10月82.0%)

5月25日には信条教育の一環として教内より講師をお招きし、講話を拝聴(学期毎に年3回実施)しました。

翌26日には天理警察署から防犯と交通安全についてのお話を伺い、その後、避難訓練を実施しました。

5月28日の日曜日には橿原公苑陸上競技場において奈良県障がい者スポーツ大会が開催され約120名の生徒・職員がボランティアとして参加し、選手の方々との交流を深めることができました。

6月から10月にかけてクラス担任を中心に生徒のつとめ先への訪問を行い、つとめ先との情報交換と相互理解につとめました。加えて、詰所主任懇談会と10月のつとめ先懇談会の開催とともに連携を確認する場としました。

6月と10月の年2回、平成25年10月の「いじめ防止対策推進法」の施行以来「いじめアンケート」を行い、いじめの未然防止・早期発見に努めました。

前年度より6月と9月に実施している3、4年生を対象にした校内学力テストを国語・数学・英語の3科目から社会・理科を加えた5科目とし、生徒の学習への取り組み意識を高めるとともに、基礎学力の低い生徒への学習支援に向け、各教科で対応をはかりました。特に数学科については、各学期末に実施している進学講習・基礎講習とは別に、低学力生徒への「数学基本講習」を開講し、学力の向上に努めました。

本校受験志願者確保の上から6月と11月の年2回、オープンスクールを開催し、学校紹介、授

業や部活動の見学、受験に向けての個別相談等を行って学校への関心と理解を深めていただきました。また、全教職員で市内各所の信者詰所を個別訪問し、受験者確保に努めました。

6月23日には、真柱様・奥様・大亮様をお迎えして農事部にて4月の「はえでのつとめ」をおつとめ下された種モミから育った苗での「田植え」が行われ、10月には、農事部生達が丹精込めて育てた稲を真柱様・奥様そしてご成婚間もない大亮様・布恵様ご夫妻をお迎えしての「稲刈り」が行われました。収穫された米は1年間、ご本部神殿の毎日の供米として、他の野菜・果物とともに供えられ、さらに御供として下附されています。



田植え

7月から8月にかけての「こどもおちばがえりひのきしん」に多くの生徒・教職員がひのきしんをさせていただきました。また正月の「お節会」にも生徒・教職員がひのきしんをさせていただき、帰参された信者さん方にお喜びいただきました。

夏に行われた全国定時制通信制体育大会には、8競技115名の選手が出場しました。団体戦では軟式野球部が11年連続14回目の優勝、バレーボール部女子が3年ぶり11回目の優勝、バスケットボール部男子が準優勝・女子が3位、バドミントン部女子が準優勝、卓球部男子・柔道部女子がそれぞれ3位でした。また個人戦では、柔道部女子-63kg級で佐野明花里(2年)が優勝、水上はるえ(4年)が3位、+63kg級で長畑真帆(4年)が3位、バドミントン部男子で村田厚久(4年)が3位、女子は二宮理栄(3年)が2位に入賞しました。他、すべての競技で8位以上に入賞しました。これらの種目の団体・個人に対して後日、奈良県定時制通信制教育振興会・奈良県高等学校体育連盟・奈良県教育委員会よりそれぞれ賞をいただきました。

部活動以外では、公益財団法人奈良県人権文化財団主催の「熱と光のショートレター」の中学・高校の部で高津克隆(3年)が優秀賞を受賞しました(前年度も本校生が受賞)。また2017年度「奈良県食育作文」コンテストでは、多くの応募者の中から端無雪乃(1年)が最優秀賞、同じく西村藍那が優秀賞を受賞しました。書道では、大江麻友(4年)が第22回全日本高校・大学生書道展で「展賞」を受賞しました。

教員研修については、「実践を通してアクティブラーニングについて考える」(県教育課程研究集会)への研修受講をはじめ、教科毎の学習指導研究会への参加、外部講師を招いての校内研修、そして各教科での授業展開等についての内部研修を重ね、教員相互の研鑽に努めました。

学校運営評価については、教員個々の自己評価に向上が見られ、課題はあるものの目標達成に向けての取り組みの跡が見られました。

「めざす教職員像」についてもその主旨をよく理解し、行動できるよう各教職員が努力しました。

次年度から始まる耐震化に向けての校舎の建て替え等により、授業に支障が出ないよう、学校本部(総務部)や高校一部とも協議・調整を重ねました。

3月11日に3年生88名が「おさづけの理」を拝戴いたしました。卒業までの1年間を学生ようぼくとして歩むことになります。

【天理中学校】

本年度も、前年度に引き続き「一生懸命にやろうとする心」「生活の基礎基本・基本的生活習慣を身につけよう」という2つのことを1年間の学校生活の柱として、いろいろな場面において繰り返し伝え、日々の学校生活を過ごしていきました。運動会や音楽会等大きな学校行事が終わった後半も前年と同様に、「掃除」に力を入れて個々の心の成長をすすめる努力をしました。

学校全体としては、「毎朝の学校参拝」や「ひのきしん活動」に、生徒・教職員ともに勇んで意欲的に取り組むことができました。また、「おさづけの取り次ぎ」や「お願いづとめ」も、意識の高まりとともに積極的な実践が学校生活の多くの場面で見られています。今後も、教職員自らが「よふぼく」であるという自覚をしっかりと持ち努力を重ねたいと考えています。

授業内容の充実や教員の資質向上に向けては、本年度は校内での教科内研修の充実を図り、県や市の「研修講座」や「授業研修」へは、例年のように参加することができました。

学校生活では、前年度同様に、「いじめのない学校生活をめざす」ということを重点目標に加え取り組みました。例年のようにいじめに関するアンケートを実施し、見えてきた問題点については、各クラスや学年、生徒指導部会で細かなところも見逃さないで対応するとともに、問題が起こった際は、学校全体が組織として動くよう心掛け取り組むことができました。今後も、教職員のいじめに対する「絶対に許さない」という意識をしっかりと持って指導にあたりたいと思います。「礼儀正しい規律のある学校」として「挨拶」はとても重要なものであり、これまでの取り組みの成果もあり、しっかりとできていると感じています。特に修学旅行等の校外へ出た時や来校者への挨拶は良いに^いがけとなっており、次年度以降も継続できるようにしたいと思います。その他まだまだやり切れていない部分については、学校全体として見逃さず、教職員一人ひとりが厳しさをもって取り組んでいけるよう努力していききたいと思います。

学習面については、全学年が朝の会の時間を使って、朝の読書に取り組むことで、1時間目から真剣に落ち着いて授業に臨むことができました。次年度もこのことを継続して、生徒一人ひとりの学習への意識を高め学力を向上させていくことを目標に、基礎基本に重点をおいた指導の徹底に取り組みたいと思います。また、3年生の高校入試では多くの生徒が希望する進路を開拓実現できていますが、管内の高等学校との連携をさらに推し進め、個々の徳分を生かせる進路開拓ができるよう進路指導を充実させていきたいと考えています。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに入る生徒、また、近年増加傾向にある、心に問題を抱える生徒たちへのケアについては、本年度も教育相談委員会を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげるなどのサポートを行いました。また、担任や副担任の家庭訪問も必要に応じて繰り返し実施しました。特別支援教育については、その対象生徒への対応について考えることが多くあり、本年度も研修を行いました。今後も継続して取り組む必要があることを確認できました。

耐震補強工事のため、3月に天理教校学園高校校舎へ一時移転しました。移転は、短期間での準備・計画となりましたが、教職員と生徒の一手一つの活動により、無事に計画通り一時移転することができました。



移転作業

部活動については、飛込部、柔道部、水泳部、が全国大会への出場を果たしました。その中で水泳部は、第57回全国中学校水泳競技大会において、女子400mメドレーリレーと女子400mフリーリレーの2種目で準優勝しました。

【天理小学校】

新任教員4名、新入児童104名を迎え、本年度が始まりました。前年度同様、教祖百三十年祭で真柱様のお言葉を指針に学校運営を推進しました。「道の後継者の育成」の一端を本校の教育を通して担わせていただいていることを教職員一人ひとりが心に刻み、教祖の教えに基づいて児童たちの育成に努めてまいりました。「教義」「信条」の授業はもとより、学校行事、学級活動等、学校生活のあらゆる機会を通して、親神様の思召し、教祖の親心を児童たちに伝え、この御教えを身に行えるように取り組みました。

特別支援を要する児童が通級する「パレット教室」を前年より1つ増加して4教室とし、支援体制の充実を図りました。

また、平成30年度、31年度の2年間の試用期間を経て平成32年4月より施行される新学習指導要領の対応として、天理大学人間学部総合教育研究センター教職課程上田喜彦教授を迎え、新学習指導要領について研修を実施し、研究授業を展開しました。

学習指導については、基礎基本の定着のため、各教科、各学年の重点目標をそれぞれ掲げ、日々の授業を展開しました。

職員研修については、大テーマ「信条教育の実践」、中テーマ「お道の教えを通して、児童の心を育てる」、「児童の学力を育てる」、「児童に生きる力を身につけさせる」とし、さらに6つの小テーマを設け、多方面での研修を実施しました。

生活指導については、前年度同様、電車通学の児童の登校指導を行いました。各学期初めに3日から4日間、前栽駅、二階堂駅、長柄駅にそれぞれ3名から4名の教員が出向き、安全に公共交通機関を利用する時のマナーを重点に指導を行いました。

施設・設備については、運動場の鉄棒等遊具の更新を行いました。

耐震対策としては、法人とともに校舎、体育館について検討を重ね、その結果、次年度は体育館の耐震改築工事を進め、建て替えることとなりました。



道の子文集

【天理幼稚園】

将来のようぼくを育てるという本園創立の精神を自覚し子ども達に日常の生活の中で、親神様のお働きやお恵みを実感できる場や機会を逃さず捉えて伝えていけるよう、教職員が一手一つに勇んで務めました。また、信条視聴覚教材として、本園創立90周年時に作成した教童話脚本集より「れいくんの1日」(朝起き・正直・働き)の話のパープ



朝起き・正直・働きの話

サート教材にし、子ども達にお道の教えを伝えさせていただくことができました。

教育内容については、前年度に引き続き子ども達が年齢の枠を越えてともに学び合い、成長していくことを願い、異年齢交流の機会を多くもちました。回を重ねるごとに、憧れやいたわりの気持ちをもって接し、お互いに相手を思いやる気持ちがもてるようになりました。

特別な支援を要する園児に対しては、本法人健康管理室教育心理相談室と連携をとり、月に1回巡回相談を依頼し、専門的な立場からの所見や助言を参考にし、全教職員が共通理解のもと援助できるようにしました。また、個別の指導計画、支援計画を作成し課題を明確にして生涯にわたる支援につなげられるよう努めました。

教育研修については、文部科学省の幼稚園教育理解推進事業の研究課題に基づいて、幼稚園教育要領の理念を実現するためのカリキュラムマネジメントの適切な実施について園内研修や協議を積み重ねました。また、毎日全教員で保育の振り返りをする時間を確保し、園児たちの興味や発達に即した環境構成であったか、園児たちにとって意味のある活動になっていたか等を話し合い、記録に写真を添付し視覚的にも共通理解ができるようにしました。

保護者との連携については、育友会主催の行事では育友会役員の方の負担が大きくなるよう教職員も役割を担い、少しでも役員の負担が軽減できるようにしました。保護者への通知には、発信する内容、時期等を吟味し、できるだけ具体的な情報を伝えるよう努めました。また、ホームページや掲示板には写真を多く取り入れ、園の様子をよりわかりやすく保護者へ提供し、より理解いただけるようにしました。また、園児それぞれについての体調変化やその日の園での様子を詳細に電話で報告する等、家庭との連携を密にするよう心掛けました。

保護者アンケートを含んだ学校評価を実施しました。どちらも高評価でしたが、寄せられた意見や要望については、見直しや改善に努めさせていただくことを、3月の育友会総会で報告しました。

環境面については、専門業者による園庭遊具の安全点検を行っておりますが、3学期、総合遊具すべり台踊り場の木材の腐食が見つかり危険な状態であったため、現在業者に修理を依頼しております。その他、老朽化に伴い、玄関、給湯室、業務員宅の雨漏り、人工川のコンクリート劣化による危険箇所等の修繕や手入れを行いました。また、クジャク小屋、ドーム型小屋、中庭ウサギ小屋、ニワトリ小屋の撤去を行いました。

3. 財務の概要

(1) 平成 29 年度決算の概要

平成 29 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

◆ 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にならない活動も含めることになります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には翌年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,543,296	3,557,440	△ 14,144
手数料収入	64,387	69,884	△ 5,497
寄付金収入	2,709,500	2,723,025	△ 13,525
補助金収入	1,146,460	1,215,465	△ 69,005
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	14,208	14,127	81
受取利息・配当金収入	24,571	20,775	3,796
雑収入	316,978	333,090	△ 16,112
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	461,220	516,260	△ 55,040
その他の収入	384,675	502,951	△118,276
資金収入調整勘定	△ 900,125	△ 781,574	△118,551
前年度繰越支払資金	4,595,396	4,595,396	
収入の部合計	12,360,566	12,766,839	△ 406,273

●支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	5,618,924	5,614,216	4,708
教育研究経費支出	1,322,846	1,250,050	72,796
管理経費支出	313,684	314,332	△648
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	199,800	204,170	△ 4,370
設備関係支出	184,746	185,563	△ 817
資産運用支出	208,210	277,325	△69,115
その他の支出	640,250	660,193	△ 19,943
資金支出調整勘定	△ 845,700	△1,073,547	227,847
翌年度繰越支払資金	4,717,806	5,334,537	△ 616,731
支出の部合計	12,360,566	12,766,839	△ 406,273

収入の部では、学生生徒等納付金収入は約1414万円の収入超過の35億5744万円となりました。手数料収入は予算に対して550万円増額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より26億円、その他の寄付金は100%出資の事業会社「キャンパスサポート天理」の受配者指定寄付金、使途指定寄付金及び一般寄付金を合わせて1億2302万円ありました。補助金収入の国庫補助金収入では、見込みを下回り5億2961万円となりました。国庫補助金収入のうち、私立大学等経常費補助金は予算に対して1286万円減額し5億2714万円となっています。地方公共団体補助金収入は見込みを上回り、予算額より8080万円増額の6億8586万円となり、補助金合計は12億1546万円となりました。受取利息・配当金収入は見込みを下回り2078万円となっています。雑収入は、施設設備利用料収入が見込みを上回り2581万円、私立大学退職金財団等交付金収入が予算を上回り、2億4545万円、また、その他の雑収入が331万円見込みを上回ったことなどにより、予算に対して1611万円の増加となりました。前年度繰越支払資金等を加えた収入の部合計では127億6684万円となりました。

支出の部では、人件費支出は予算を471万円下回り56億1422万円となりました。前年度より教員人件費は5692万円減額し、職員人件費は414万円増額しました。退職金が2億286万円増額したため、人件費合計では、前年度より1億5017万円増額しています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施 設	内 容
大 学	◇研究棟北面外壁及び屋根改修工事 ◇親里ホッケー場照明改修工事 ◇心光館3階空調更新工事 ◇体育学部陸上トラックフィールド改修工事（1期） ◇杣之内キャンパス電話交換設備更新工事 ◇4号棟3階マルチメディア教室改修工事 ◇阪神甲子園球場広告料 ◇3号棟3階教室机・椅子購入 ◇ネットワークブートシステム導入 ◇体育学部テニスコート照明改修工事 ◇4号棟学生ホール空調更新工事 ◇体育学部総合体育館トレーニング場床改修工事 ◇親里ホッケー場部室新築工事（1期） ◇AV教室のCALL教室化改修工事 ◇6号棟3階トイレ改修工事 ◇杣之内第一体育館プロジェクター設置 ◇インターネット出願システム導入

施 設	内 容
図 書 館	◇地下廊下土間タイル改修工事 ◇特別本「和英語林集成」「賦何人連歌（水梨瀬三吟百韻）」「音羽桜」「広く知られる英国による東西印度航海記」「赤鳥考并関赤鳥考題手篇左」購入 ◇国宝「類聚名義抄」保存修理 ◇古典の至宝展図録制作
研 究 所	◇天理教事典（第三版）発行
参 考 館	◇企画展示室壁付き展示ケースのLED照明工事 ◇特別展「天理図書館 古典の至宝」臨時バス運行 ◇資料（銅剣、土地人形、黄楊人形）の保存及び修復処理 ◇未整理資料（古瓦）整理作業
高等学校	◇本校舎管理人室改修工事 ◇各校舎情報配線増設工事 ◇保健室システム開発 ◇校舎・体育館耐震診断 ◇本校舎耐震補強計画業務 ◇第一体育館、別館耐震改築工事に伴う設計監理業務 ◇第二別館美術教室移転改修工事 ◇第4別館2階男子便所増設工事 ◇硬式野球部第99回全国高等学校野球大会出場に関する補助 ◇仮設駐輪場設置工事 ◇さおとめ寮消火用連結送水設備改修工事
中 学 校	◇教室棟・講堂棟・体育館棟・柔道場棟耐震補強計画に係る判定等業務及び実施設計業務 ◇生徒用机、椅子購入 ◇仮移転に伴う乾隅棟改修工事
小 学 校	◇校庭遊具修繕及設置工事 ◇プール塗装及び濾過ポンプの配管改修工事 ◇エレベータかご安全装置及びドアセンサー取付工事 ◇校舎耐震補強設計業務 ◇体育館耐震診断及び改築工事に伴う設計監理業務

資金支出は合計で127億6684万円となり、そのうち翌年度繰越支払資金は53億3454万円となりました。

【用語（科目）の説明】

資金収入の部

- ① 学生生徒等納付金収入……授業料、入学金、実験実習料、教育設備充実費等
- ② 手数料収入……………入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金収入……………宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等
- ④ 補助金収入……………私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産売却収入……………固定資産の売却収入、有価証券の売却収入
- ⑥ 付随事業・収益事業収入…図書館、参考館の事業収入、受託事業収入
- ⑦ 受取利息・配当金収入……預金、有価証券等の利息、配当金等
- ⑧ 雑収入……………施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑨ 借入金等収入……………日本私立学校共済・振興事業団、金融機関よりの借り入れ収入
- ⑩ 前受金収入……………翌年度入学の学生、生徒等に係る学生生徒等納付金収入
- ⑪ その他の収入……………引当特定資産の取崩収入、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入、
預り金収支を純額で表示し、預り金支払額を超える預り金受入収入
その他仮払金等収支を純額で表示し、支払額を超えた場合の回収収入
- ⑫ 資金収入調整勘定……………当該会計年度期末における未収入金、前会計年度の前受金

資金支出の部

- ① 人件費支出……………教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職金

- ② 教育研究経費支出……………教育研究のために要する経費
- ③ 管理経費支出……………教育研究経費以外の経費
- ④ 借入金等利息支出……………借入金に係る利息支出
- ⑤ 借入金等返済支出……………借入金の返済支出
- ⑥ 施設関係支出……………土地、建物、構築物等固定資産取得のための支出（資産運用目的のための取得を除く）
- ⑦ 設備関係支出……………耐用年数が1年以上の10万円以上の備品、長期間にわたって使用保存する書籍等、
車両の取得のための支出
- ⑧ 資産運用支出……………有価証券購入のための支出、引当特定資産への繰入支出
- ⑨ その他の支出……………前会計年度末における未払金の当該会計年度における支出
預り金収支を純額で表示し、預り金受入額を超える預り金支出
仮払金収支を純額で表示し、仮払金の回収額を超える仮払金支出
- ⑩ 資金支出調整勘定……………当該会計年度期末における未払金

◆ 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、学校法人会計基準の改正により平成27年度より作成が義務づけられました。この計算書は、資金収支を「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの収入、支出及び収支差額を表示することで資金の流れを明らかにするものです。「教育活動による資金収支」では、学校法人の本業である教育活動によりどれだけの資金が獲得できたのかがわかります。「施設整備等活動による資金収支」では、当年度に施設関係、設備関係の取得がどのくらいあったのか、財源が何であったのかがわかります。「教育活動」と教育活動をインフラ面から支える「施設整備等活動」の資金収支差額の合計は学校法人の活動における中心的な収支内容を明らかにします。また、「その他の活動による資金収支」では、借入金の状況、資金運用の状況等、主に財務活動について把握することができます。

（単位：千円）

教育活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	3,557,440	人件費支出	5,614,216
手数料収入	69,884	教育研究経費支出	1,250,050
特別寄付金収入	2,685,900	管理経費支出	314,332
一般寄付金収入	21,626		
経常費補助金収入	1,215,465		
付随事業収入	14,127		
雑収入	332,465		
教育活動資金収入計(A)	7,896,907	教育活動資金支出計(B)	7,178,598
		差引(A-B=C)	718,309
		調整勘定等(D)	160,572
		教育活動資金収支差額(C+D=E)	878,881

施設設備等活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
施設設備寄付金収入	15,499	施設関係支出	204,170
施設設備売却収入	0	設備関係支出	185,563
校舎等建設引当特定資産取崩収入	0	校舎等建設引当特定資産繰入収入	9,401
施設整備等活動資金収入計(a)	15,499	施設整備等活動資金支出計(b)	399,134
		差引(a+b=c)	△ 383,635
		調整勘定等(d)	191,239
		施設整備等活動資金収支差額 (c+d=②)	△ 192,396

小計（教育活動資金収支差額＋施設設備等活動資金収支差額）(①+②=③)	686,485
-------------------------------------	---------

その他の活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
第3号基本金引当 特定資産取崩収入	100,000	有価証券購入支出	0
退職給与引当特定資産取崩収入	200,000	第3号基本金引当特定資産繰入支出	167,924
修学旅行費等預り金受入収入	18,292	退職給与引当特定資産繰入支出	100,000
立替金・保証金回収収入	891	預り金支払い支出	1,710
仮払金回収収入	0	立替金支払い支出	0
小計	319,183	修学旅行費等預り預金への繰入支出	18,292
受取利息・配当金収入	20,775	敷金・保証金支払支出	0
過年度修正収入	624	小計	287,926
その他の活動資金収入計(ア)	340,582	過年度修正支出	0
		その他の活動資金支出計(イ)	287,926
		差引(ア-イ=ウ)	52,656
		調整勘定等(エ)	0
		その他の活動資金収支差額 (ウ+エ=④)	52,656

支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）(③+④)	739,141
前年度繰越支払資金	4,595,396
翌年度繰越支払資金	5,334,537

平成29年度決算では、教育活動資金収支差額は8億7888万円の収入超過、施設設備等活動資金収支差額は1億9240万円の支出超過になり、教育活動資金収支差額と施設設備等活動資金収支差額

の合計は6億8648万円の収入超過になりました。また、その他の活動資金収支差額は5266万円の収入超過になっています。これらにより、翌年度繰越支払資金は7億3914万円増額し、53億3454万円となりました。

◆ 事業活動収支計算

事業活動収支計算書は、学校法人会計基準の改正により平成27年度より消費収支計算書に代わって作成が義務づけられました。事業活動収支計算は、当該会計年度の負債とならない収入から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた事業活動収入と資産の消費や用役の対価である事業活動支出とで計算されます。したがって、資金収入には含まれない現物寄付を事業活動収入に加え、固定資産の利用を耐用年数期間での消費と認識した減価償却額は事業活動支出に該当します。また、教職員の将来の退職時に支給される退職金は用役の対価と認識され、退職給与引当金繰入額も事業活動支出に含まれます。さらに、事業活動収入及び事業活動支出は経常的活動と臨時的活動（特別活動）に区分し、経常的活動を教育研究に係る活動と教育活動外（財務活動・収益事業活動）に区分して、その収支状況を明らかにします。これら3区分の収支差額を合計し、基本金組入前の当年度収支差額を計算します。ここから基本金組入額を控除した当年度収支により事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態が明らかにされ、学校法人の経営の状況を示すことになります。

事業活動収支は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。（損益計算書では計上されない資本的支出が、事業活動収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。）学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を永続的に提供することを目的としています。事業活動収支計算の事業活動収入と事業活動支出が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

（単位：千円）

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	3,543,296	3,557,440	△ 14,144
		手数料	64,387	69,884	△ 5,497
		寄付金	2,709,500	2,707,525	1,975
		経常費等補助金	1,146,460	1,215,465	△ 69,005
		付随事業収入	14,208	14,127	81
		雑収入	316,978	332,466	△ 15,488
		教育活動収入計	7,794,829	7,896,907	△ 102,078
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	5,619,524	5,605,996	13,528
		教育研究経費	2,037,208	1,947,326	89,882
		管理経費	352,243	353,153	△ 910
		徴収不能額等	0	1,710	△ 1,710
		教育活動支出計	8,008,975	7,908,185	100,790
	教育活動収支差額		△ 214,146	△ 11,278	△ 202,868

教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	24,571	20,775	3,796
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	24,571	20,775	3,796
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計		0	0	0	
教育活動外収支差額		24,571	20,775	3,796	
経 常 収 支 差 額			△ 189,575	9,497	△ 199,072
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	10,680	38,387	△ 27,707
		特別収入計	10,680	38,387	△ 27,707
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	20,570	72,122	△ 51,552
		その他の特別支出	0	37	△ 37
		特別支出計	20,570	72,159	△ 51,589
	特別収支差額		△ 9,890	△ 33,772	23,882
	基本金組入前当年度収支差額			△ 199,465	△ 24,275
基本金組入額合計			△ 330,890	△ 67,923	△ 262,967
当年度収支差額			△ 530,355	△ 92,198	△ 438,157
前年度繰越収支差額			△ 11,994,190	△ 11,994,200	10
基本金取崩額			0	294,575	△ 294,575
翌年度繰越収支差額			△ 12,524,545	△ 11,791,823	△ 732,722
(参考)					
事業活動収入計			7,830,080	7,956,069	△ 125,989
事業活動支出計			8,029,545	7,980,344	49,201

【用語（科目）の説明】

教育活動収支

- ① 学生生徒等納付金……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料……入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金……宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等（施設設備寄付金を除く）
- ④ 経常費等補助金……私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等（施設整備補助金を除く）
- ⑤ 付随事業収入……図書館、参考館の事業収入、受託事業収入
- ⑥ 雑収入……施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑦ 人件費……教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費

役員報酬、退職給与引当金組入額



- ⑧ 教育研究経費……………教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑨ 管理経費……………教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑩ 徴収不能額等……………回収不能が確定となった未収入金等の金銭債権額

教育活動外収支

- ① 受取利息・配当金……………預金、有価証券等の利息、配当金等
- ② その他の教育活動外収入…受取利息・配当金以外の教育活動外収入
- ③ 借入金等利息……………借入金に係る利息支出
- ④ その他の教育活動外支出…借入金等利息以外の教育活動外支出

特別収支

- ① 資産売却差額……………資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ② その他の特別収入……………施設設備拡充のための寄付金、施設設備の現物寄付受領額、施設設備拡充のための補助金
過年度修正による当年度収入
- ③ 資産処分差額……………固定資産を廃棄した場合の除却損
- ④ その他の特別支出……………過年度修正による当年度支出、災害損失

基本金組入額合計……………学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を保持するために維持すべきものとして、
当該年度に組み入れた基本金額（固定資産、奨学基金等）

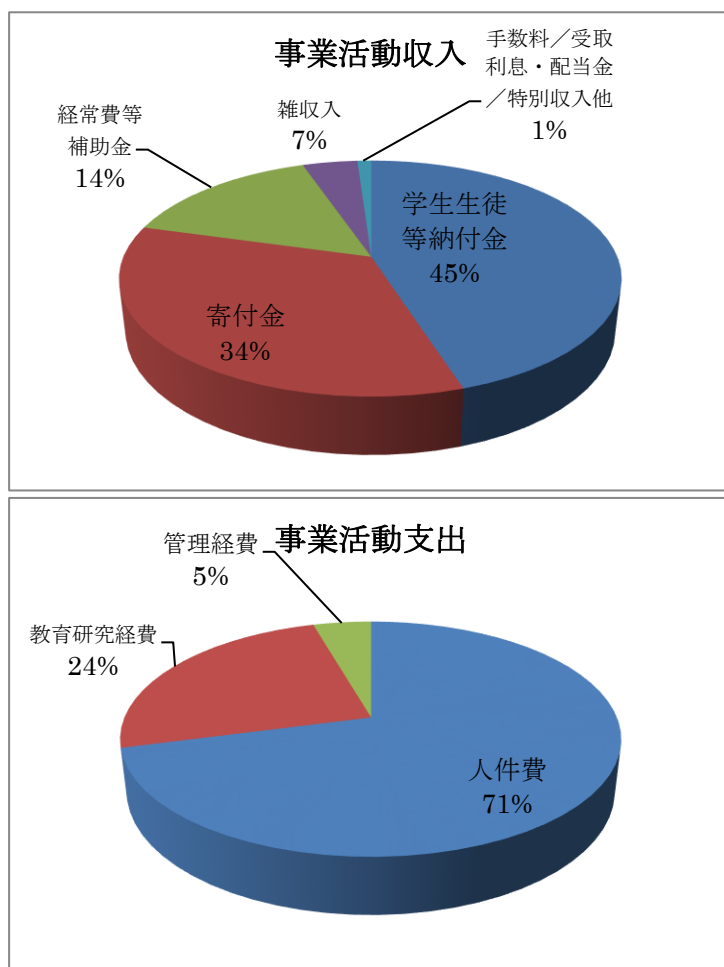
教育活動収支では、教育活動収入計が予算比 1.3%増の 78 億 9691 万円（前年度 2.0%〈1 億 5148 万円〉の増）となり、教育活動支出計が予算比 1.3%減の 79 億 819 万円（前年度 0.5%〈3949 万円〉の増）となりました。人件費には退職給与引当金繰入額 5 億 4877 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 822 万円となっています。教育研究経費に 6 億 1866 万円、管理経費に 2500 万円の減価償却費を含んでいます。教育活動収支差額は予算比 94.7%減の 1128 万円の支出超過となっています。

教育活動外収支では、教育活動外収入計が予算比 15.4%減の 2076 万円（前年度 16.2%〈403 万円〉の減）となりました。借入金等はないので教育活動外支出はありません。教育活動外収支差額は予算に対して 380 万円の減額となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は 950 万円の収入超過となりました。

特別収支では、特別収入計が予算比 359%増の 3839 万円（前年度 192%〈1840 万円〉の増）となり、特別支出計が予算比 351%増の 7216 万円（前年度 657%〈6117 万円〉の増）となりました。その他の特別収入に現物寄付として大学後援会等より図書の受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入等、計 2112 万円を計上しています。特別収支差額は予算比 341%増の 3377 万円の支出超過となりました。

当該会計年度の事業活動収入計と事業活動支出計の差額（基本金組入前当年度収支差額）は 2427 万円の支出超過となり、基本金組入額合計 6792 万円（予算比 79%減）を控除した当年度収支差額は 9220 万円の支出超過額（前年度は 5 億 3108 万円の支出超過額）となりました。また、機器備品の現物確認調査等により廃棄した金額 2 億 9458 万円を取り崩しました。前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は 117 億 9182 万円となりました。

《事業活動収入及び事業活動支出の構成比》



◆ 貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および繰越収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債の部、純資産の部はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、繰越収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計でいう資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている資産）と繰越収支差額（事業活動収支計算において事業活動収入から基本金組入額を控除し、事業活動支出を差し引いた差額の会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものと異なる点です。

記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準としています（取得原価基準）。また、時の経過によりその価値を減少させる固定資産（建物、機器備品等）の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

(単位：千円)

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	25,654,101	26,073,213	△ 419,112
有 形 固 定 資 産	23,811,255	24,207,692	△ 396,437
特定資産	1,419,468	1,442,144	△ 22,676
その他の固定資産	423,378	423,377	1
流動資産	5,865,430	4,995,854	869,576
資産の部合計	31,519,531	31,069,067	450,464

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	948,650	956,871	△ 8,221
流動負債	1,853,425	1,370,465	482,960
負債の部合計	2,802,075	2,327,336	474,739

●純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	40,509,280	40,735,931	△ 226,651
第1号基本金	39,734,206	40,028,781	△ 294,575
第3号基本金	210,074	142,150	67,924
第4号基本金	565,000	565,000	0
繰越収支差額	△ 11,791,824	△ 11,994,200	202,376
純資産の部合計	28,717,456	28,741,731	△ 24,275
負債及び純資産の部合計	31,519,531	31,069,067	450,464

【用語（科目）の説明】

- ① 固定資産……………有形固定資産：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車両、建設仮勘定
 特定資産：第3号基本金引当特定資産、退職給与引当特定資産、校舎等建設引当特定資産
 その他の固定資産：電話加入権、有価証券、敷金・保証金
- ② 流動資産……………現金預金、修学旅行等預り預金、未収入金、仮払金、立替金、貯蔵品
- ③ 固定負債……………長期借入金、退職給与引当金
- ④ 流動負債……………短期借入金、未払金、前受金、預り金、修学旅行等預り金
- ⑤ 基本金……………第1号基本金：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輛等の教育研究に必要な資産を
 自己資金で取得した総額
 第3号基本金：天理大学ふさと会海外研修基金、果実を学生の海外研修費用の一部に充当
 天理大学ふさと会奨学基金、果実を学生の奨学金に使用
 第4号基本金：学校法人が円滑な運営を行うために必要な運転資金の額
- ⑥ 繰越収支差額 ……当年度以前の各年度の事業活動収入から基本金組入額合計を控除し、事業活動支出を
 差し引いた差額の累計額

資産の部では、有形固定資産が施設設備の更新、受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却額を差し引いて、前年度末から3億9644万円減額しています。特定資産は、第3号基本金引当特定資産の繰り入れと退職給与引当特定資産の取り崩しにより差引き2268万円減額しています。その他の固定資産は増減ありません。流動資産は現金預金、修学旅行費等預り預金、未収入金、貯蔵品が増額し、立替金が減額したことにより差引8億6958万円の増額となりました。資産の部合計では差引4億5046万円増の315億1953万円となりました。

負債の部では未払金、前受金、修学旅行費等預り金が増加し、退職給与引当金が減少したので差引き4億7474万円増の28億208万円となっています。純資産の部では、基本金が6792万円の基本金組み入れを行い2億9458万円の基本金取り崩しがありましたので総額405億928万円となりました。繰越収支差額は事業活動収支計算の翌年度繰越収支差額と同額の117億9182万円の支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部(正味財産)は287億1746万円となりました。

(2) 経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。なお、平成26年度以前については旧学校法人会計基準(昭和46年4月1日文科省令第18号)により作成したものを新学校法人会計基準(平成25年4月22日文科省令第15号)の様式に基づき、区分及び科目を組み替えて作成しました。

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
学生生徒等納付金収入	3,761,406	3,761,592	3,673,659	3,657,481	3,557,440
手数料収入	69,896	69,806	70,616	66,501	69,884
寄付金収入	2,813,579	2,749,941	2,644,668	2,618,825	2,723,025
補助金収入	1,186,075	1,226,230	1,145,208	1,139,282	1,215,465
資産売却収入	0	185	100,077	1,709	0
付随事業・収益事業収入	9,250	11,266	14,613	14,334	14,127
受取利息・配当金収入	25,043	25,482	29,779	24,804	20,775
雑収入	378,590	418,857	406,336	253,856	333,090
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	472,825	457,796	485,180	483,241	516,260
その他の収入	258,287	396,543	1,271,955	886,650	502,951
資金収入調整勘定	△ 819,890	△ 1,003,160	△ 938,514	△ 668,948	△ 781,574
前年度繰越支払資金	4,558,985	4,774,108	5,120,265	5,120,265	4,595,396
収入の部合計	12,714,046	12,888,646	14,023,842	13,598,000	12,766,839

●支出の部					
科 目	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度
人件費支出	5, 860, 258	6, 095, 073	5, 790, 832	5, 464, 045	5, 614, 216
教育研究経費支出	1, 452, 858	1, 356, 565	1, 302, 203	1, 353, 114	1, 250, 050
管理経費支出	345, 677	367, 600	370, 250	340, 521	314, 332
借入金等利息支出	1, 123	0	0	0	0
借入金等返済支出	100, 000	0	0	0	0
施設関係支出	54, 416	23, 737	279, 668	382, 952	204, 170
設備関係支出	230, 694	200, 706	207, 666	328, 507	185, 563
資産運用支出	1, 402	1, 028	700, 488	404, 404	277, 325
その他の支出	844, 814	957, 790	1, 610, 411	982, 332	660, 193
資金支出調整勘定	△ 951, 304	△ 1, 234, 118	△ 971, 022	△ 640, 190	△ 1, 073, 547
翌年度繰越支払資金	4, 774, 108	5, 120, 265	4, 733, 346	4, 595, 396	5, 334, 537
支出の部合計	12, 714, 046	12, 888, 646	14, 023, 842	13, 211, 081	12, 766, 839

(単位：千円)

事業活動収支計算書							
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度
		学生生徒等納付金	3, 761, 406	3, 761, 592	3, 673, 659	3, 657, 481	3, 557, 440
		手数料	69, 896	69, 806	70, 616	66, 501	69, 884
		寄付金	2, 813, 579	2, 746, 368	2, 632, 860	2, 618, 515	2, 707, 525
		経常費等補助金	1, 164, 743	1, 206, 179	1, 145, 208	1, 139, 282	1, 215, 465
		付随事業収入	9, 250	11, 266	14, 613	14, 334	14, 127
		雑収入	378, 590	589, 088	405, 830	249, 318	332, 466
		教育活動収入計	8, 197, 464	8, 384, 299	7, 942, 786	7, 745, 431	7, 896, 907
	事業活動支出の部	科 目	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度
		人件費	5, 854, 909	6, 007, 040	5, 779, 940	5, 434, 782	5, 605, 996
		教育研究経費	2, 155, 173	2, 047, 850	1, 981, 942	2, 054, 702	1, 947, 326
		管理経費	380, 013	400, 150	406, 520	379, 207	353, 153
		徴収不能額等	0	0	0	0	1, 710
		教育活動支出計	8, 390, 095	8, 455, 040	8, 168, 402	7, 868, 691	7, 908, 185
	教育活動収支差額		△ 192, 631	△70, 741	△225, 616	△123, 260	△11, 278



教育活動外収支	事業	科 目	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	
	活動	受取利息・配当金	25,043	25,482	29,779	24,804	20,775	
	収入	その他の教育活動外	0	0	0	0	0	
	の部	収入						
		教育活動外収入計	25,043	25,482	29,779	24,804	20,775	
	事業	科 目	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	
	活動	借入金等利息	1,123	0	0	0	0	
	支出	その他の教育活動外	0	0	0	0	0	
	の部	支出						
		教育活動外支出計	1,123	0	0	0	0	
教育活動外収支差額			23,920	25,482	29,779	24,804	20,775	
経 常 収 支 差 額			△168,711	△45,259	△195,837	△98,456	9,497	
特別収支	事業	科 目	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	
	活動	資産売却差額	0	185	77	26	0	
	収入	その他の特別収入	37,468	36,268	23,564	19,964	38,387	
	の部	特別収入計	37,468	36,453	23,641	19,990	38,387	
	事業	科 目	2 5 年度	2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	
	活動	資産処分差額	24,504	59,330	24,899	10,569	72,122	
	支出	その他の特別支出	0	0	0	416	37	
	の部	特別支出計	24,504	59,330	24,899	10,985	72,159	
	特別収支差額			12,964	△ 22,877	△1,258	9,005	△ 33,772
	基本金組入前当年度収支差額			△ 155,747	△ 68,136	△ 197,095	△ 89,451	△ 24,275
基本金組入額合計			△ 104,722	△ 201,936	△ 310,202	△ 441,632	△ 67,923	
当年度収支差額			△ 260,469	△ 270,072	△ 507,297	△ 531,083	△ 92,198	
前年度繰越収支差額			△ 10,510,279	△10,770,748	△11,040,820	△11,548,117	△11,994,200	
基本金取崩額			0	0	0	85,000	294,575	
翌年度繰越収支差額			△10,770,748	△11,048,820	△11,548,117	△11,994,200	△11,791,823	
(参考)								
事業活動収入計			8,259,975	8,446,234	7,996,206	7,790,225	7,956,069	
事業活動支出計			8,415,722	8,514,370	8,193,301	7,879,676	7,980,344	

(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	25年度末	26年度末	27年度末	28年度末	29年度末
固定資産	26,628,652	26,254,794	26,092,603	26,073,213	25,654,101
有形固定資産	24,849,042	24,474,156	24,231,492	24,207,692	23,811,255
特定資産	1,656,241	1,657,268	1,437,740	1,442,144	1,419,468
その他の固定資産	123,369	123,370	423,371	423,377	423,378
流動資産	5,102,428	5,663,159	5,432,782	4,995,854	5,865,430
資産の部合計	31,731,080	31,917,953	31,525,385	31,069,067	31,519,531
●負債の部					
科 目	25年度末	26年度末	27年度末	28年度末	29年度末
固定負債	1,085,060	997,026	986,133	956,871	948,650
流動負債	1,549,606	1,892,649	1,708,070	1,370,465	1,853,425
負債の部合計	2,634,666	2,889,675	2,694,203	2,327,336	2,802,075
●純資産の部					
科 目	25年度末	26年度末	27年度末	28年度末	29年度末
基本金	39,867,162	40,069,098	40,379,300	40,735,931	40,509,280
第1号基本金	39,076,543	39,277,451	39,587,167	40,028,781	39,734,206
第3号基本金	140,619	141,647	142,133	142,150	210,074
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	565,000	565,000
繰越収支差額	△10,770,748	△11,040,820	△11,548,118	△11,994,200	△11,791,824
純資産の部合計	29,096,414	29,028,278	28,831,182	28,741,731	28,717,456
負債及び純資産の部合計	31,731,080	31,917,953	31,525,385	31,069,067	31,519,531

(3) 主な財務比率の推移

主な事業活動収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。なお、学校法人会計基準改正に伴う新基準における財務比率の算式は日本私立学校振興・共済事業団が提示したものを使用し、過年度の比率も新基準の算式により計算しています。

(単位：％)

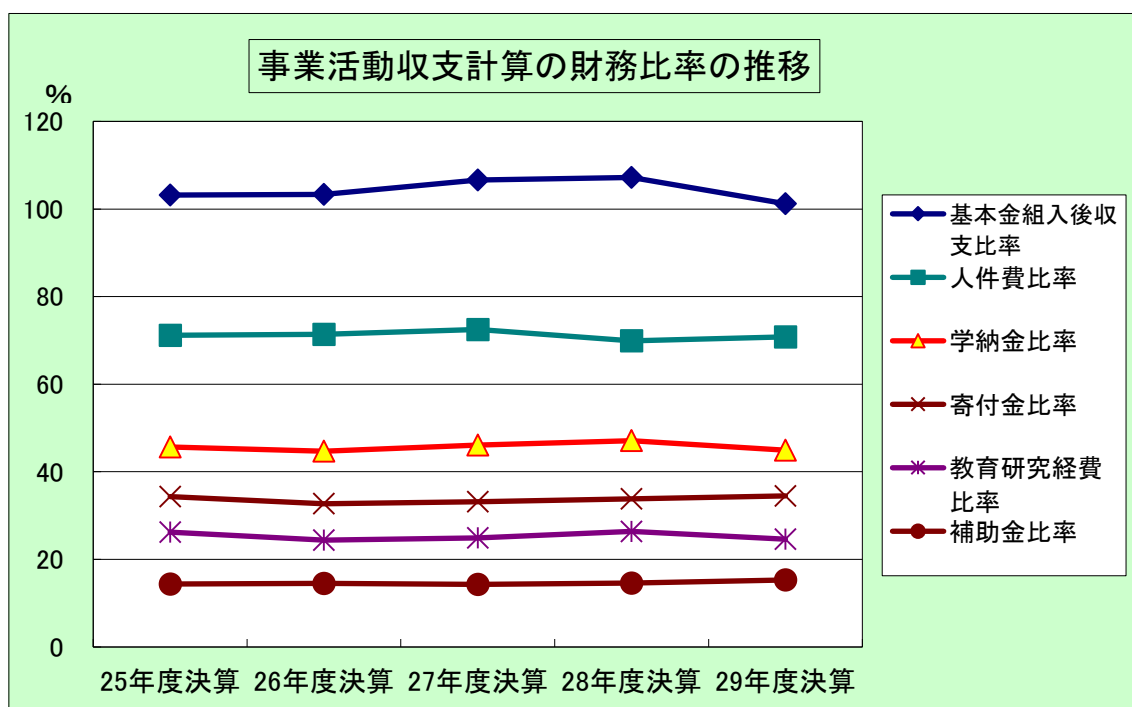
事業活動収支計算書関係比率	算式 (×100)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	71.2	71.4	72.5	69.9	70.8
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	155.7	159.7	157.3	148.6	157.6
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	26.2	24.4	24.9	26.4	24.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.6	4.8	5.1	4.9	4.5
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0	0	0	0	0
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△1.9	△0.8	△2.5	△1.1	△0.3
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入－基本金組入額}}$	103.2	103.3	106.6	107.2	101.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	45.7	44.7	46.1	47.1	44.9
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	34.3	32.7	33.2	33.8	34.5
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	14.4	14.5	14.3	14.6	15.3
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	1.3	2.4	3.9	5.7	0.9
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△2.1	△0.5	△2.5	△1.3	0.1
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△2.3	△0.8	△2.8	△1.6	△0.1

「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

貸借対照表関係比率	算式 (×100)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	83.9	82.3	82.8	83.9	81.4
純資産構成比率	$\frac{\text{純資金}}{\text{総負債＋純資産}}$	91.7	90.9	91.5	92.5	91.1
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	91.5	90.4	90.5	90.7	89.3
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産＋固定負債}}$	88.2	87.4	87.5	87.8	86.5
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	329.3	299.2	318.1	364.5	316.5
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	8.3	9.1	8.5	7.5	9.8
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	99.9	100.0	100.0	99.6





基本金組入後収支比率は100%を恒常的に上回り、29年度では1.2ポイント上回りました。人件費比率は24年度から横ばい状態ですが、29年度は前年度から0.9ポイント上がりました。学生生徒等納付金比率（学納金比率）は2.2ポイント下がり、寄付金比率は0.7ポイント上がりました。教育研究経費比率は1.8ポイント下がりました。補助金収入は昨年度より増額となったため、補助金比率は0.7ポイント上がりました。